

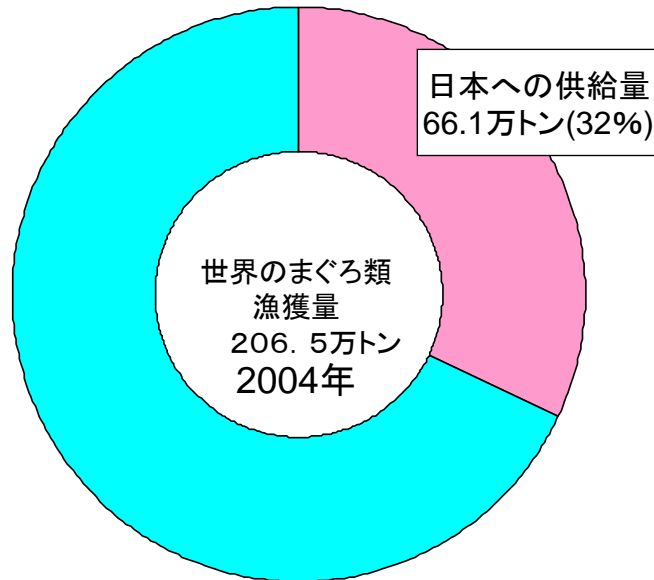
我が国のまぐろ類の供給と 最近の国際漁業規制について

平成19年2月
水産庁

【我が国のまぐろ類生産と我が国の消費】

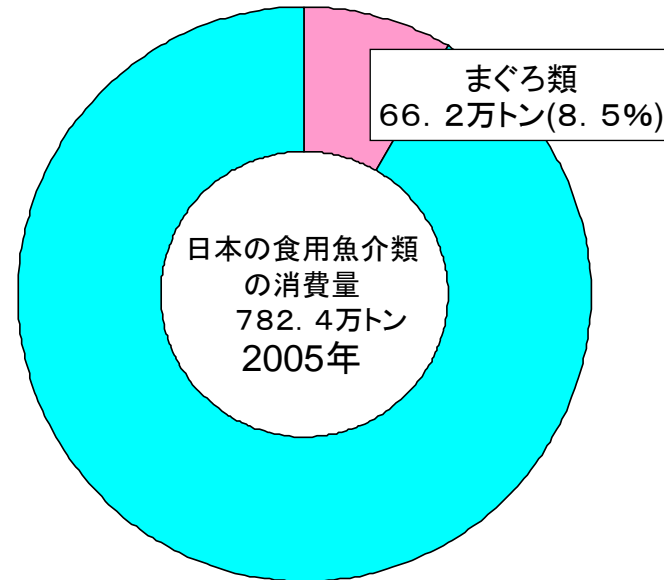
- 世界のまぐろ類の漁獲量の約32%が日本向けに供給
- 日本食用魚介類消費の約8.5%がまぐろ類
- 我が国の「食において、まぐろ類は重要な食品」

世界のまぐろ類漁獲量と日本への供給量(原魚換算値^(※))
(推定)



出典
(世界のまぐろ類漁獲量)FAO統計 FISHSTAT+、クロマグロ、ミナミマグロ、メバチ、
キハダ、ビンナガの5種のみをまぐろ類として集計
(日本への供給量)農林水産省食料需給表(原魚換算値)

日本の食用魚介類消費に占める
まぐろ類の割合(概数)



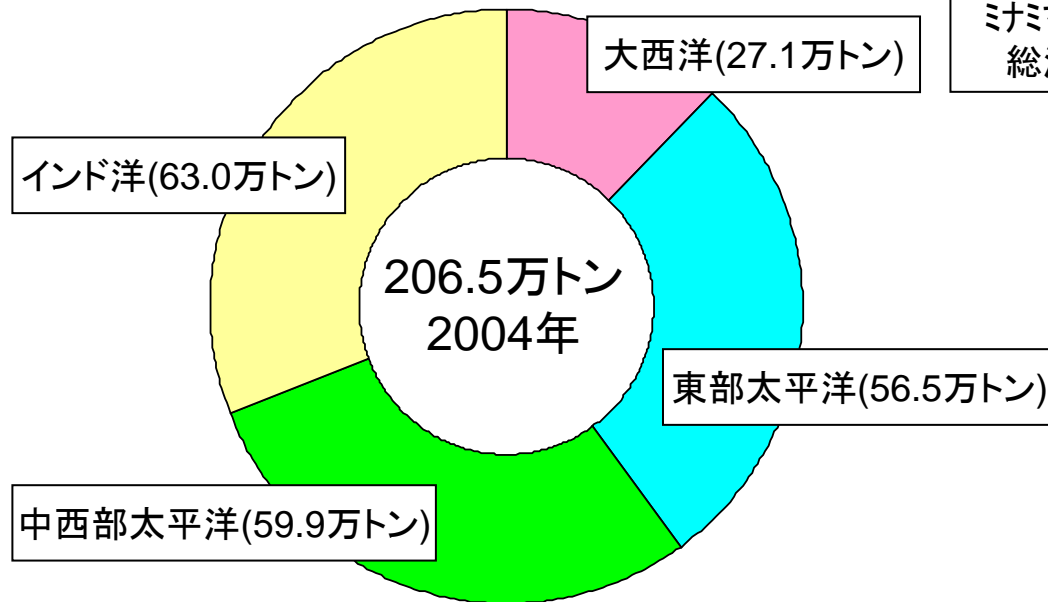
出典:農林水産省食料需給表(原魚換算値)

(※)原魚換算値:処理・加工された魚介類の重量を、処理・加工される以前の重量に換算すること

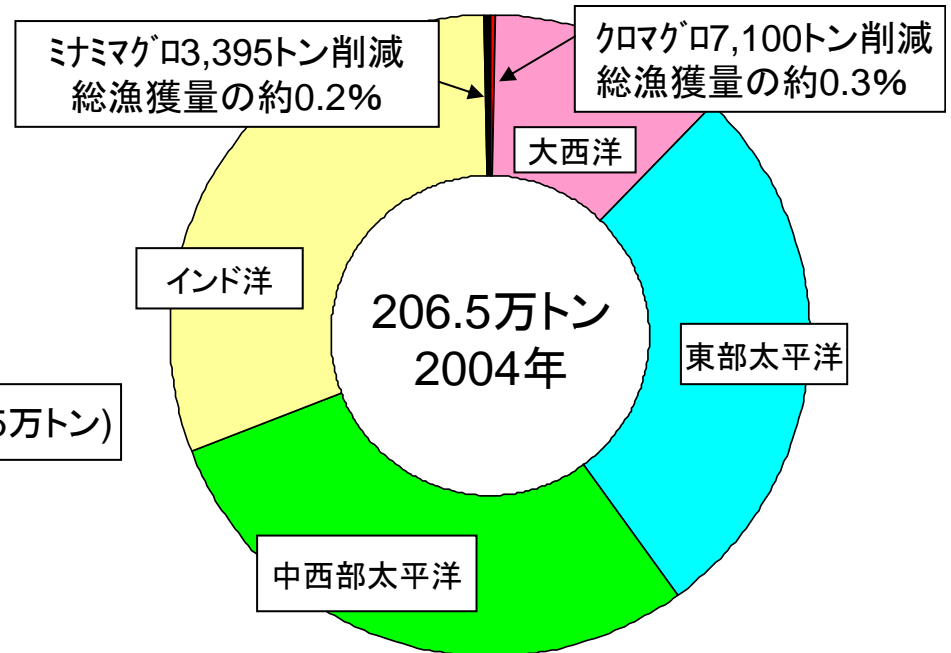
【まぐろ類の国際管理の現状】

- まぐろ類は、5つの地域漁業管理機関により管理され、大西洋クロマグロの総漁獲枠を2007年より4年間かけて7,100トン、ミナミマグロの総漁獲枠を3,395トンを削減することが決定
- 総漁獲枠の削減量の割合は、世界の総漁獲量206.5万トンの0.5%程度。

主要まぐろ類の海域別漁獲量
(推定)



漁獲枠の削減の割合



出典:FAO統計 FISHSTAT+、漁獲枠は2006年に地域漁業管理機関で決定された数値
注1:クロマグロ、ミナミマグロ、メバチ、キハダ、ビンナガの5種のみをまぐろ類として集計
注2:ミナミマグロは、インド洋の漁獲に含めた。

【価格及び流通への影響】

- ・2006年のまぐろ類の東京中央卸売市場価格は、やや上昇しているものの、比較的安定的に推移。（2006年1kg当たり1,346円。前年比11%高、過去10年平均とほぼ同額。）
- ・漁獲枠の削減はなされたが、世界の供給量206.5万トンの0.5%程度であり、日本の食卓からまぐろが消えるような状況にはない。